

## 複合災害を考慮しない避難計画に批判と懸念を表明

### 要援護者の数も聞いておらず、受け入れは現状では難しい



福井県は2月26日、広域避難の避難先を発表した。その中で、おおい町住民の約半数にあたる4,100名（大島小学校区、佐分利小学校区）の避難先として、兵庫県川西市の19の小学校・高等学校の名前が公表された（おおい町住民の半数は伊丹市が避難先となっている）。

はたして受け入れ側の準備はできているのか。具体的な話を聞くため、3月14日に兵庫・大阪の「避難計画を案ずる関西市民有志」6名で川西市に申し入れに出かけた。川西市の北上哲仁議員も同席され、申し入れの設定等で尽力いただいた。川西市からは、総務部危機管理室の数元雅信室長と同室の岡本勝主幹が対応された。冒頭に質問・要望書<sup>※1</sup>を提出し、約1時間半の申し入れとなった。3月25日付で、質問に対する文書回答が届いた<sup>※2</sup>。

※1 質問・要望書 [http://www.jca.apc.org/mihama/bousai/kawanisi\\_q\\_youbou20140314.pdf](http://www.jca.apc.org/mihama/bousai/kawanisi_q_youbou20140314.pdf)

※2 質問への文書回答 [http://www.jca.apc.org/mihama/bousai/kawanisi\\_kaitou20140327.pdf](http://www.jca.apc.org/mihama/bousai/kawanisi_kaitou20140327.pdf)

具体的に考えれば考えるほど、実効性のある避難計画が困難であり、不可能であることがひしひしと伝わってくる申し入れとなった。申し入れのやりとりを紹介する。

## 複合災害を考慮しない避難計画について批判と懸念を表明

現在の避難計画は、地震や津波等の自然災害はなく、原発事故が単独で起こることしか想定していない。これに対して、担当者は強い懸念を表明した。南海トラフ地震の際に川西市は、南部の津波被害の人たちを受け入れる想定になっているとのこと。そのとき同時に原発事故が起これば、北のおおい町からも避難者を受け入れることになり、そうなれば、受け入れは不可能だと考えていると述べられた。

原発事故の避難計画で、地震・津波との複合災害を想定していないことについて、兵庫県に対して何度もおかしいと意見を述べているとのこと。これは、川西市だけでなく、他の市からも同じような意見が出ているとのことだ。しかし兵庫県は「複合災害は考えないでくれ」というだけだとのこと。この問題一つとっても、現在の避難計画にリアリティがないことを示している。

### 計画の具体的中身は何もまだ決まっていない

スクリーニングをする避難中継所の場所等もまだ決まっていないとのことだった。とにかく人数割で小学校等の体育館を避難所として決めただけ。そればかりが要求された様子だった。

それにもかかわらず、福井県が2月末に避難先の学校名を公表したことに対して、「なぜあんなに早く公表したのか・・・」と首をかしげていた。避難計画は、形だけできても意味がないと

いう強い気持ちがあることが伝わって来た。

やりとりの中で、小浜市の担当者が避難時の渋滞問題が解決できないため、避難計画を作れないとテレビで語ったことを紹介すると、「国や県のしっかりした指導・援助がない中では避難計画を作るのは確かに難しい。小浜市の発言はよく理解できる」とも語られた。

---

### **要援護者の受け入れは、現状では難しい**

---

要援護者の受け入れについては、「今は受け入れられる状況ではない」。学校体育館に福祉スペースは作っているが、福祉避難所になるような施設はわずかしかない。

おおい町の避難者の中に、要援護者が何人いるのかも聞いていない。昨年11月におおい町の担当者と会って以来、その後は直接会って話しはしていないとのこと。要援護者の避難については、「介護が必要になるので家族単位での避難も必要になる。単純に人数で割り振ることもできない」等々、様々なことを考慮されていることが分かる。

---

### **川西市は猪名川の水と地下水を利用**

---

川西市は琵琶湖の水ではなく、猪名川の水と地下水を利用しているとのこと。3日分の備蓄（500ml ペットボトル1 万分）と、あとは井戸水を使用する。川西市も汚染されることがあれば、備蓄分は川西市民優先となり、川も汚染されることになるだろうが、そこまではまだ考えられていない。「しかし、複合災害もなく、川西市にもなんの影響もないという今の避難計画の前提では、スーパーやコンビニは通常どおり開店していることとなり、備蓄といってもマンガのような話になってしまいそうだ・・・」と、現在の避難計画の矛盾をやんわりと指摘されていた。

---

### **川西市が汚染されれば、受け入れはできない**

---

兵庫県のシミュレーションや、知事が議会で「プルーム到着は最短で2時間」と答弁したことについては、「川西市が汚染という状況になれば、受け入れはできない」とはっきり述べられた。知事が議会であれだけのことを言ったのだから、ヨウ素剤備蓄等について何か対策が出てくるのかもしれないとも話された。

---

### **現在の計画では、住民の安全を守ることはできない**

---

最後に、「現在の複合災害も考慮しない避難計画では、住民の安全を守ることはできない」と表明された。「川西市民にも説明しなければならぬが、今の状況では説明のしようがない」とも。防災計画は、国から県、市町村という流れになっているので、一つの市だけが突出した計画を作ることもできないと。

3月末の避難計画改定で、形だけは完成したとならないよう、困難点や検討中であることをしっかり明記するよう強く求めた。同時に、このような状況で再稼働されれば、住民の安全を守ることはできないため再稼働に反対してほしいと要望した。

2014. 3. 27 美浜の会